

令和3年度第1回福岡市地球温暖化対策実行計画協議会 議事録（要旨）

■日時：令和3年7月2日（金）14時00分～16時00分

■場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール メインホールB

1. 開会

- ・開会の挨拶（福岡市環境政策部長）

2. 議事

福岡市地球温暖化対策実行計画改定の検討について

- ・地方公共団体実行計画に関連する動向
- ・骨子案に向けて
- ・再生可能エネルギー（発電）

<事務局より資料（1～19ページ）に基づき再生可能エネルギー（発電）等を説明>

○委員からの主な意見

- ・都心部が中心の地域であることから、再エネのポテンシャルを考えると厳しいのは当然であり、建物による太陽光発電の設置しかないとの感じを受けた。壁と窓の太陽光発電は技術的に一般化していないが、天神などの中心市街地でモデルになるような、且つ認知度が高まるようなプロジェクトが出てくると良い。
- ・洋上風力のポテンシャルは北九州市に比べるとかなり低いものの、可能性有りの色がついているところがあることから、もう少し期待の余地がないのか。
- ・ビルの屋上は室外機関係や機械関係でかなり埋まっている。そのため、太陽光発電パネルを取り付けているビルでは、十分な面積が取れず、発電量が思いのほか高くないことが課題である。
- ・福岡市内での太陽光発電の拡張はスペース的に難しいであろうし、集合住宅や高層ビルでの太陽光発電も難しい。戸建て住宅における蓄電池と組み合わせた自家消費であれば導入が進むのではないか。
- ・太陽光以外のポテンシャルが厳しいことは分かった。主力になるのは屋根置き太陽光と思う。住宅設置以外にもカーポートに太陽光を置くようなケースも増えてきている。福岡市内で導入できる再生可能エネルギーの量に限りがあるのであれば、ある程度地域間の連携という視点も重要である。
- ・接続可能量を上げられず超えた分に関しては太陽光発電の出力を抑制するとのことであれば、結果的に再生可能エネルギーを作っても使用用途がないのではないか。
- ・再生可能エネルギーを作るだけでなく、どのような方法で貯め、どのような方法で使うのかというところをもう少し取り入れた方が良い。
- ・自家消費で使用するなど、使用するという視点を入れ込むことが必要。
- ・給湯器や電気自動車等を利用したデマンドレスポンスが解決策。職場の駐車場や商業施設の駐車場などの場所に太陽光発電があれば、駐車場でチャージができるようになる。まちづくりなどで対応することで今後再生可能エネルギーを使っていく知恵と考える。

・自動車部門

<事務局より資料（20～31 ページ）に基づき自動車部門を説明>

○委員からの主な意見

- ・バスについても普通乗用車と同じような推移になり、どれくらい時期ズレがあるかがポイント。運行距離が短いこと、車両や電気スタンド等のコスト、これらの問題をどう解決していくかが課題であるものの、公共交通機関の役割が非常に重要。
- ・車の普及とあわせ、充電のステーションや設備についてもセットになると進んでいくのではないか。
- ・車の話題は相当壮大な話になっていて1自治体ではなかなかできない。1自治体であるのであればオンサイト分散型で出来る事をしていく事が一番現実的。
- ・国のシナリオで水素が普及した場合には、福岡市でどうするかと言えばある程度十分なのではないか。例えばインフラ設置場所を検討するなど、市の中でどうするかオプションが少しでも触れられると良い。
- ・自家用車を持たなくても、特に高齢者が住み易いまちづくりを進めていくべき。
- ・都市部である福岡市ならではの可能な取組があるのではないか。車自体を使わないようなカーシェアリングといった取組は、利便性が良くある程度利用者が集まっている都市部だからこそこできる取組だと思う。

・その他

- ・事業者は脱炭素の話はまだずっと先の話という印象を持っているように感じる。そのため、福岡市の事業者に対して意識付けをどのようにしていくのか、脱炭素に必要な事業者の取組むための行政としての支援をどのようにしていくのかを今回の対策の中に盛り込んでいただきたい。
- ・エネルギーコストを削減し、それがそのまま脱炭素に繋がることをうまく施策等に取り込む形ができれば良い。また、森林からの吸収などといった観点があれば良い。
- ・ブルーカーボンについては全国に先駆けて取り組んでいるので、それらの情報発信をしていく必要がある。
- ・脱炭素化という目標が新しく快適で且つ前向きな社会が示せるような形になって欲しい。
- ・テレワークの推進など、特に都市部で企業の多い地域であるので、生活様式の変化による脱炭素の推進のようなものも盛り込むと、より地域性が出る。その分テレワークが進むと家庭部門の排出が増える可能性もあるので、セクターカップリングの視点が非常に重要。
- ・民間の何らかの取組を褒めていく活動が非常に大事。金融の面から持続可能な地球環境の温暖化などの対応する方向に変えようとしているので、そのような民間側の取組も見ながら一緒にするような方向になれば良い。
- ・実行計画自体に盛り込む内容を精査することは非常に重要なことであるが、せっかく作った実行計画が市民に届いているかというのも重要。
- ・ビルに入居するテナントに脱炭素を施したビルが他のビルより選ばれるような仕組み、メッセージ、啓蒙活動をしていただくと、おのずとテナントニーズと脱炭素化が合致してくる。

3. 閉会